

狛江駅周辺エリア 道路利活用方針

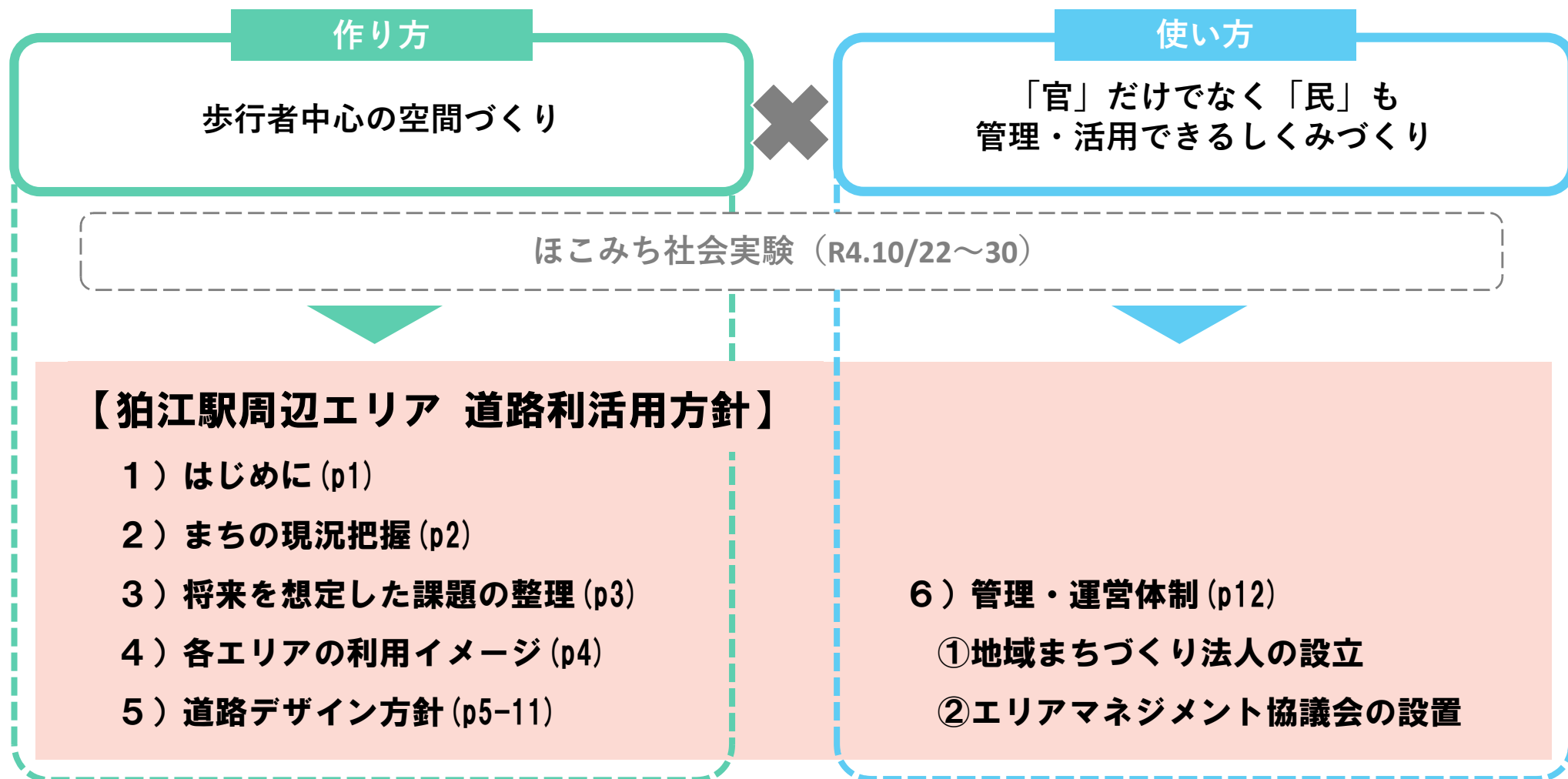
令和5年3月

狛江市

1) はじめに

この「狛江駅周辺エリア 道路利活用方針」は、狛江駅周辺の歩行空間における賑わいと滞留の創出をめざし、駅周辺の市道への『歩行者利便増進道路制度（ほこみち）』の導入を見据えた、駅周辺の自然環境を活かした歩行者中心の空間づくり（作り方）と、官だけでなく民も管理・活用できるしくみ（使い方）の両面から整理するものです。

今後は、この方針のもと、駅周辺市道の整備と管理運営体制の構築を進めていきます。



2) まちの現況把握



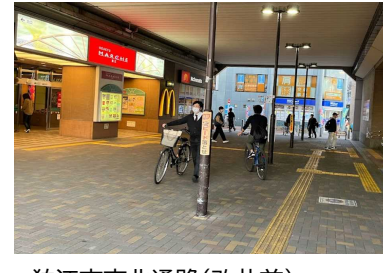
緑地前の側道



噴水ステージ付近



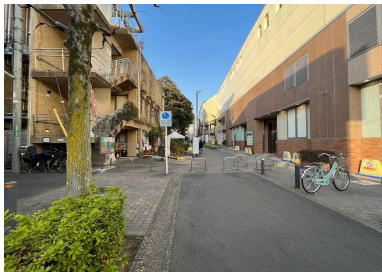
噴水ステージ裏



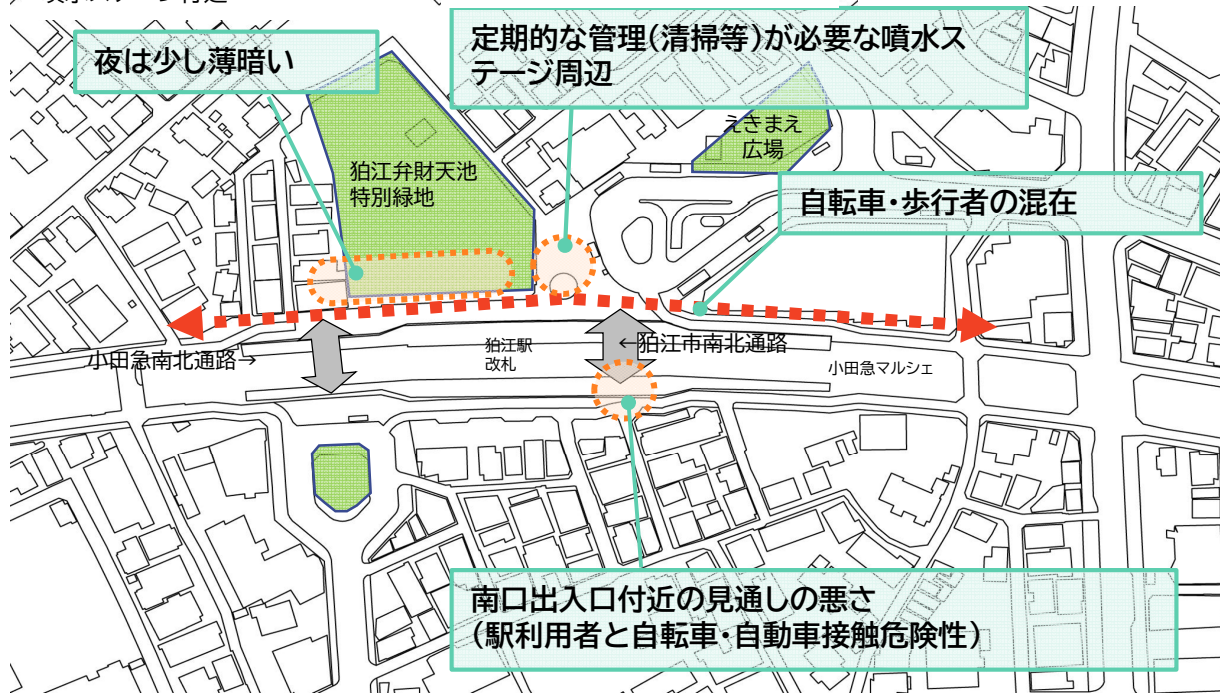
狛江市南北通路(改札前)



エコルマ裏の側道



泉の森会館前



エコルマ裏の側道



小田急南北通路



エコルマ裏の側道



南口ロータリー交通島



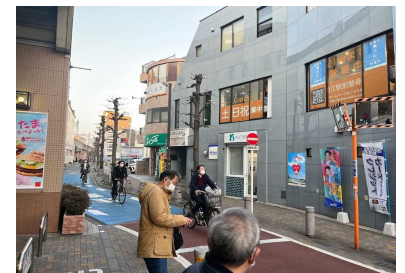
南口ロータリー



南口駅前歩道



南口駐輪場



南口出入口付近空間

3) 将来を想定した課題の整理

① 狛江の特色(強み)

狛江の独自資源を活用

- 狛江弁財天池特別緑地の自然・風景を空間デザインにもイベント活用にも活かす
- 狛江ならではの特色（絵手紙発祥の地、音楽のまち等）を取り入れる

狛江の顔となる空間・しくみづくり

- 市民の多様で多彩な活動を公共空間にて実践するための空間・しくみをつくる
- 駅前の賑わいや商業活性化に資する空間・しくみをつくる
- 市民活動等の発表の場をつくる

② 歩行空間の課題

安心して安全な歩行空間の創出

- 【北側側道】
- 歩行者・自転車の混在の解消
- 夜間でも安心して歩ける歩行空間づくり
- 【南側】
- 駅出入口部分の見通しの悪さに対する注意喚起

誰にとっても快適な駅前空間

- 歩行者の多様なアクティビティ（歩く、休む、しゃべるなど）を受け止める、滞留空間づくり
- 子ども、高齢者などあらゆる人にとっての居場所づくり
- 人と人が出会い、つながりが生まれる空間づくり

4) 各エリアの利用イメージ

① 緑地前側道

- 平日の屋下がり、散歩途中で赤ちゃんがベビーカーで寝ている間に、テイクアウトで買ったお昼ご飯をベンチに座りながら、のんびり食べられる。
- 月、水、金と老人クラブに出かけた帰りは、竹林の風を感じながらゆっくり腰かけて休める。
- 平日の夜はサラリーマンが、テラス席に座ってお酒を飲んでいる友人を通りがかりに見つけ、『一杯だけ。』と言いながらお店に入る。
- 学校帰りの高校生が暗くなるまで、友達と話ながら、時には竹林をバックに動画を撮影したり、仲良く楽しい時間を過ごしている。
- 週末の昼は子連れのファミリーは、好きなランチをそれぞれキッチンカーで買って、緑地保全地区の竹林や木々を眺めながら家族みんなでランチを食べる。
- 金曜の夜は、1週間頑張った自分へのプチご褒美タイム。若いカップルが、で会社帰りに夕飯を済ませて帰る。
- 月に一度は、家族みんなで外食。子どもたちは久しぶりの外食でなかなか落ち着かないけれど、広がりのある屋外なら穏やかな気分で食事を楽しめる。



② 噴水ステージ周辺

- 噴水ステージは、平日のお昼時は、駅周辺で働くサラリーマンの昼休憩を取る場所。それぞれ静かに座りながらも、多くの人が駅前で過ごしている。
- 平日の午前、狛江に初めて営業で来たビジネスマンは、駅前の一番目印になる噴水ステージで待ち合わせをする。
- 夕方、学校帰りの中学生のたまり場。名残惜しそうにいつまでもしゃべりあっている。
- 日曜の昼は子どものダンスイベントが噴水ステージであるので、夫婦そろって見に行く。子どもだけでなく親御さんもたくさん来ていて、駅前が多くの人でにぎやかになる。



③ マルシェ沿道

- 平日の午後、幼稚園に子どもを迎えにいき、買物帰りに子どもを少し遊ばせてから帰る。ちょっとした時間を子どもが遊べる居場所空間になっている。
- 夜に駅前の通りで立ち飲みしながら語り合う若者は、飾らない感じが絵になっている。通りは若者のストリート感の雰囲気漂わせている空間となっている。
- 土曜の昼はマルシェ沿道でやっている子ども向けワークショップ目当てに親子が集まる。子どもがワークショップに参加している間、親はキッチンカーでコーヒーを買ってきて、子どもの活躍を見守っている。
- 駅前のイベントが終わった後も、通りのテーブルに若者が座って談義に花をさかせ、余韻を楽しんでいる。



⑤ 南口側道・バスロータリー前

- スタンドバー感覚で通りの壁掛けテーブルで飲んでいる若い女性たちは、おしゃれなカフェ空間の雰囲気を感じさせている。
- 連れ添う子どもにもマルシェで売っているかわいいお菓子をせがまれるも、親も気に入り買い求める。
- 夫婦で展示イベントを見たあと、夫と一緒に広場前のオープンカフェでお茶をする。



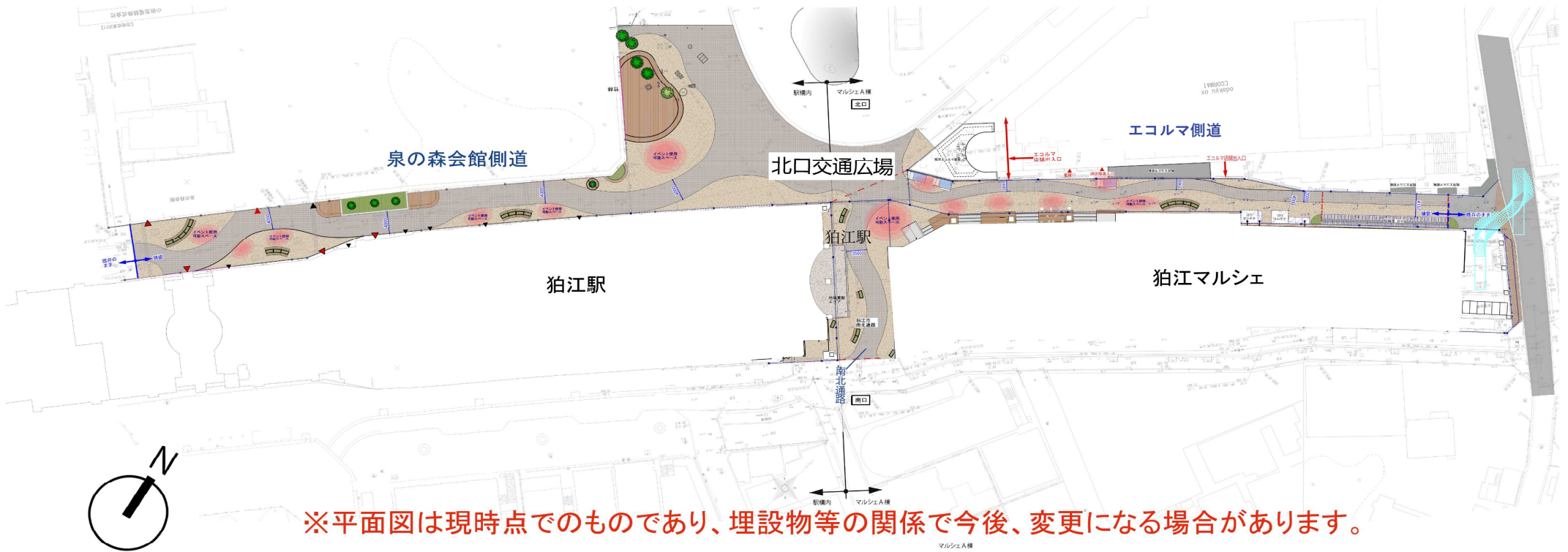
④ 改札前南北通路

- 昼時はお弁当メインのお店が並び、駅利用者や近隣のオフィスワーカーが買い物をして、にぎわっている。
- 改札前にクラフトビールの屋台が並び、ビール好きの若者でにぎわっている。クラフトビールを紹介するコーナーでは、店主のおすすめの品やこだわりの製造方法などが紹介される。
- マルシェイベントでは、キッチンカーも出店。お店のファンも集まり、買い物客でにぎわう。ファンの中には狛江に初めて来た人も多く、狛江の面白さを実感してもらえた。
- イベントが終わったあとも、来場客が椅子やベンチに座ってとどまり、改札前のにぎやかさが続く。まわりの商店も店を遅くまで開けるなどの相乗効果も。



5) 道路デザイン方針

①全体 (平面図)



5) 道路デザイン方針

②ゾーンごと

緑地前側道（噴水側）整備イメージ



- ・子どもからお年寄りまで、竹林を眺めながらゆっくり休めるデッキベンチ
- ・駅舎側の中低木や植栽を整理しつつ、残した植栽も淵をベンチにするなど、スペースを有効活用しながら座れる空間を確保
- ・坂道を下る自転車のスピードを抑制するための“くねくね”した道

5) 道路デザイン方針

②ゾーンごと

噴水ステージ周辺 整備イメージ



- ・ステージ奥の噴水を撤去し、木の質感を持った2段のデッキステージを緑地に寄せる形で設置
- ・デッキステージは、イベント使用時に人が滞留する箇所と歩行者の導線が重ならないように配置
- ・子どもからお年寄りまで、様々な人が安心して座れる低めの段差と緩やかに曲がるデッキステージの形状
- ・ステージ奥の高木の一部は、一体的なデザインとしてデッキステージに取り込む

5) 道路デザイン方針

②ゾーンごと

マルシェ沿道（改札側） 整備イメージ



- ・南北通路とあわせ、一体的な賑わい空間の形成
- ・マルシェとエコルマの間の道路(車道4m+歩道2m)を、全面歩行者専用道路に切り替え。※車止めから先
- ・“押しチャリ”による歩行者の安全性確保

5) 道路デザイン方針

②ゾーンごと

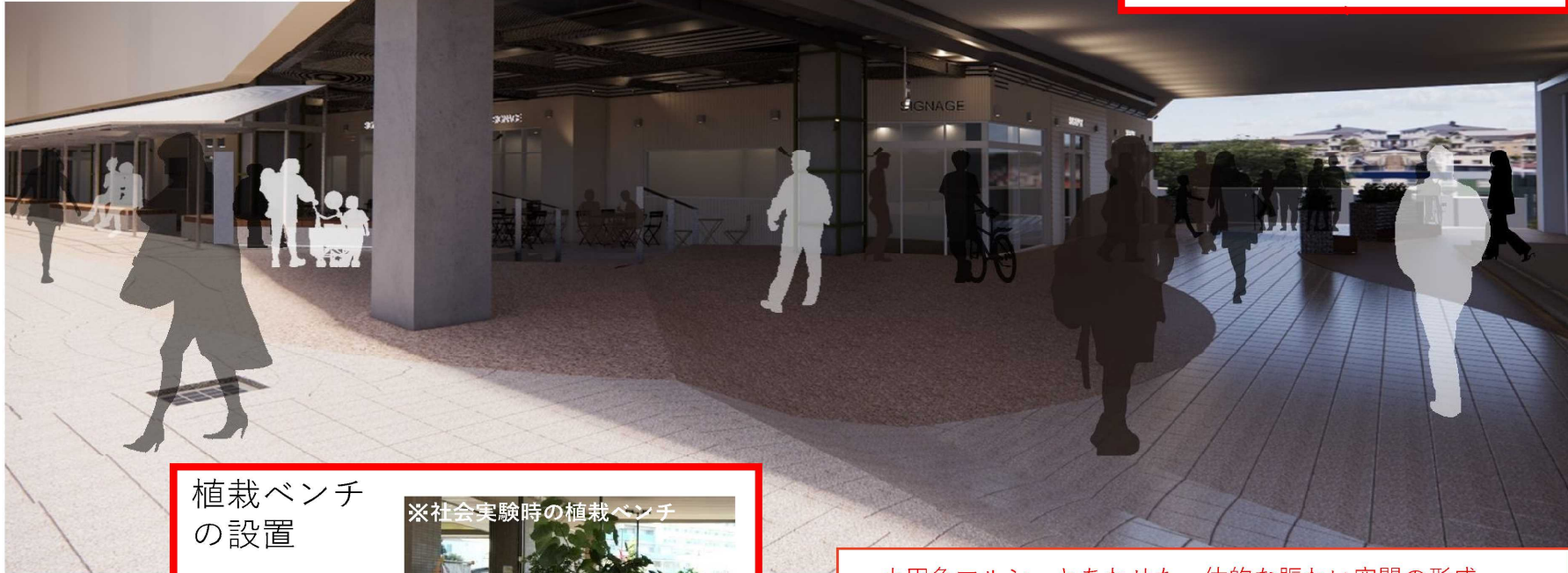
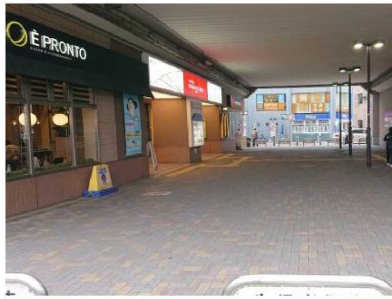
マルシェ沿道（中より）整備イメージ



- ・全面歩道化に合わせて植栽や中低木を道路の両側に寄せることで、歩道を広く、歩きやすい空間に。
- ・道路空間にキッチンカーや屋台の出店スペースも確保し、賑わいと滞留の空間に。
- ・買い物の後、ほっと一息つけるマルシェ外壁に沿って伸びるベンチ

5) 道路デザイン方針 ②ゾーンごと

改札前南北通路 整備イメージ



- ・小田急マルシェとあわせた一体的な賑わい空間の形成
- ・歩行者専用道路への切り替えと、押しチャリの推奨による歩行者の安全確保
- ・南口の側道への飛び出し防止を目的とした植栽の設置

5) 道路デザイン方針

③各ゾーン共通

(※写真はすべてイメージ)

滞留空間

- ▶空間全体に移動可能な置き式のベンチ、植栽等を配置



照明

- ▶ポール灯、庭園灯、足元照明等により必要な照度を確保
- ▶泉の森会館側道は、駅舎を照らす照明を検討

交通

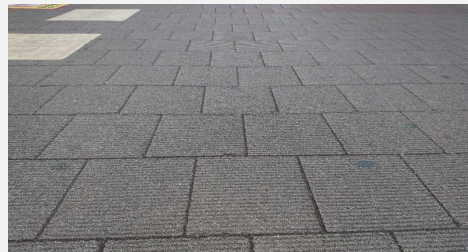
- ▶エコルマ側道及び南北自由通路は「歩行者専用道路」に切り替え。
- ▶『歩行者と自転車の共存』をめざしつつ、エコルマ側道及び南北自由通路はおしチャリを徹底、泉の森会館側道はおしチャリを推奨。
- ▶自転車速度抑制のための"蛇行線形"の歩行空間を形成

設備

- ▶エコルマ側道の東側入口付近に駐輪場設置を検討
- ▶イベント時のレイアウトを想定のうえ電源を設置

舗装

- ▶舗装は公共道路の一般的基準に則りつつ、滑りにくい舗装材を選定



6) 管理・運営体制

- ① 狛江駅周辺の賑わい創出に向けて、駅周辺エリアのほこみち対象区域を一括占用（一次占用）する**地域まちづくり法人**を設立し、占用区域を管理運営する。
- ② 駅周辺エリアのマネジメントを行うなかでの全体方針や重要事項を審議・調整する**エリアマネジメント協議会**を設置し、地域まちづくり法人は必要な意見を伺う。

